

令和7年度 第2回豊田市博物館運営協議会 会議録

1 日 時 令和8年2月10日（火）午前10時15分～正午

2 開催場所 豊田市博物館 2階 会議室

3 出席者

〈委員〉 （敬称略・50音順）北村 和宏・釘宮 順子・黒澤 浩・西塔 隆
新美 倫子・布垣 直昭・平野 敬一・深谷 暢樹・若山 敏美（以上9名）

〈事務局〉 村田館長・高橋副館長・井上副主幹・倉林担当長・伊藤担当長
梅村担当長・山田主査・中島主査

4 会議の経過

館長あいさつ、会長あいさつ、出席委員の報告（9名）を確認し、本会議が成立することを宣言した。議事録署名人として、職務代理者の布垣委員を指名した。傍聴人なし。

5 内容

議題（1）令和7年度展覧会事業について

- ① 開館1周年記念「岸田吟香と岸田劉生」開催結果について
 - ② 「豊田市博物館コレクション展示」開催結果について
 - ③ 「ブルックリン博物館所蔵 特別展 古代エジプト」開催結果について
- それぞれの展覧会実績等について事務局から説明。

【委員意見】

（委員）

- ・岸田吟香展とコレクション展のアンケートは紙面のみ、エジプト展のアンケートはQRコードのみでやられているが、QRコードでのアンケート回答率が0.2%ととても低く、QRコードでの効果がみられないように思う。アンケートの取り方を工夫して、回答数を増やし、データを増やしていったらよいと思う。
- ・自分は博物館のSNSは好き。音楽もよい。混雑情報の投稿は非常にわかりやすくよいので、知り合いにもSNSを見ることを勧めている。速報性のある情報の発信にはSNSがよい。またSNSの方が能動的に情報発信できるので、うまく使い分けて運用されるとよいと思う。
- ・エジプト展はインフルエンサー広告の効果測定ができるものだろうか。インフルエンサーが日常的に発信している内容と展覧会の親和性が大事になると思う。インフルエンサーの選択をよく検討すると、効果が一層大きくなると思う。

(事務局)

- ・エジプト展は来観者が多すぎたため、留まってアンケートを書くことが他の来館者の妨げになるので、QRコードでのアンケートを積極的に選択した。混雑する展覧会では、アンケートの回答数が減る傾向がある。よりよい方法を選択していきたい。
- ・当館は、インスタグラムをメインのプラットフォームとして公開している。エジプト展のころから、混雑情報やまちなかパーキングへの誘導をインスタグラムで投稿し始めた。Xとインスタグラムではそれぞれ見る年齢層、性別、プラットフォームの特性として文字情報に強いとか写真に強いとかが異なる。インスタグラムのユーザーは女性が多いため、今後は、男性への訴求力が高く、文字情報が強いXについても導入するメリットがあるか検討する。インスタグラムは、投稿一つ一つの作品性が強く、パッとみて面白そうな施設や取組と感じてもらう働きかけにはよいと思う。

(委員)

- ・インスタグラムはビジュアルの訴求力があり、隙間時間にもパッと目に入る。1枚目の画像で興味を引き、そこから詳細を開いていくとか、開くものがリール動画であったりするなどの使い方もよいと思う。

(事務局)

- ・インフルエンサーについては、実行委員会メンバーであるマスコミから提案していただいている。効果測定については十分できていない。親和性に関しても厳密なチェックをしていないのが現状。今後は、意識してやっていきたい。

(委員)

- ・エジプト展はものすごい人出だったが、障害を持った方々も同じように並んでいたと聞いた。駐車スペースもなかったそうだが、今後は配慮が必要だと思う。
- ・QRコードのアンケートは高齢者ではあまりやらないと思う。紙面アンケートでは20～40代の回答数が少ない。ありとあらゆることで知らせることは大事であり、いろいろと選べるとよいと思う。

(事務局)

- ・エジプト展では、車いすの方は基本的に優先にして、極力並ばないようにする努力はしてきた。しかし、細かい対応ができる以上に人が来てしまったのが実際。
- ・障がい者用やおもいやり駐車も満車になってしまった。障がい者の方を優先したいが、そもそも満車の際には、敷地内に車両で入ることができない。一般の方には公共交通機関での来場を呼び掛けたが、自家用車での来場は7割以上であり、本来優先されるべき方を優先できないのが実情である。交通手段として自家用車を選択しても、駅前パーキングや臨時駐車場をご利用いただくよう、SNSでも呼びかけた。その効果として、駅前パーキングを利用した来館者は、これまでにないくらいの実績となった。今後の課題として認識している。

(委員)

- ・展覧会の観覧者から、アクティブラーニングで活動する子どもたちに対する不満の声はあったのか。

(事務局)

- ・今年度は学校側が可能であれば、通常の開館時間前に展覧会会場に入ってもらおう対応をしていた。本来は同じ時間帯に展示室にいることによって、世の中にはいろいろな人がいて、いろいろな考えの人がいることを知ってもらおうことができることがよいと思う。
- ・子どもたちは皆タブレットを持っていて、学習の中で写真を撮ることもあり、それに対して、タブレットで写真を撮るのではなく、せっかく実物があるのだから自分の目でちゃんと見た方がよいなどのご意見あった。しかし、写真を撮るとか、展示物を見ながら対話をするなど、大人も子どもも、観覧の仕方は色々だと思う。

(委員)

- ・子どもたちはワークブックを見ながら展覧会を見学していて、ワークシートに関わる展示の全部を見たいけど、一般の観覧者の方へ迷惑をかけてはいけないと思っている教員もいる。展覧会会場から少し離れたところに、アクティブラーニング用に3か所くらいワークシートに対応したコーナーを用意してもよいかもしれない。3か所はワークシートを見て、あとは展覧会会場で実物を見ればよいというようなこともよいかと思う。

(事務局)

- ・学校側に早い時間に来ていただいても、9時30分くらい。せいぜい30分くらいしか見られない。30分で企画展を全部みってもらうのは難しいが、できるだけたくさん見てもらいたいと思っている。

(委員)

- ・エジプト展、モネ展では、小坂区民に招待券をいただき感謝している。区民の中には初めて博物館に来た、初めて美術館に来た方もいて、とてもよい機会になった。
- ・美術館で開催した「ジブリの立体造形展」の時には、渋滞がひどくて家からでられないほどだったが、今回はとても配慮していただいた。一般車両の進入は遠慮くださいと看板を掲示してくれたりしていた。看板を持っているアルバイトに、近所の人々がペットボトルを差し入れたということもあった。苦情もなかった。
- ・3月28日に小坂自治区内を巡るウォーキングをやる。その昔は、このあたりは七州台と言われており、高橋節郎館のあたりが一番高いところだと聞き、そこで内藤学文公顕彰会の方に説明をしてもらう予定。豊田市民の誓いや、童子山小学校の校歌、豊田西高校の校歌にも七州という言葉が出てくる。広く知ってもらいたい。
- ・中心市街地活性化協議会に出席した際、令和5年度、令和6年度の休日の市街地の歩行者数が1日当たり2万2千人くらいだったのが、令和7年度は2万6千人くらいとのこと。ロピアの开店とエジプト展・モネ展開催が波及効果になっているのではないかという。目標値では10%だったモネ展とエジプト展の両方を観覧した人が58%という実績だが、あえて同時期の開催としたのかどうか教えてほしい。

(事務局)

- ・エジプト展もモネ展もどちらも巡回展であり、偶然性が大きい。渋滞については、臨時駐車場を設ける、公共交通機関の利用を呼び掛けるなどして最大限の配慮をして実施した。同時に開催した効果もあり、6割近い方々が両方見ていただいたし、中心市街地へも足を運んでもらえた。近隣の店舗の売り上げも上がったと聞いた。

良い面もあるが、近隣にお住まいの方が、来館者と思われる車のことで困られたり、来館する車の動きが危険だという話も聞いた。今回の反省を踏まえ、近隣への迷惑が少ないやり方で進めていく。

(委員)

- ・色々なミュージアムを運営した経験で、巡回展でやられるような大きな展覧会は、明らかに人がたくさん来る良さがある反面、海外から輸送するだけでも相当な費用がかかることで、来場者が多く来る割には、実際に運営する館側の負担が大きいこともあった。実際にエジプト展のような大きな巡回展と、比較的負担の少ないコレクション展のようなものを比べた時、コスパというか実態はどうだったか教えてほしい。

(事務局)

- ・館が独自で巡回展を開催する方法と、共催の新聞社やテレビ局と巡回展を開催するための実行委員会を組織し運営する方法がある。
- ・エジプト展や深宇宙展は、実行委員会により開催しておるもので、開催経費全体は相当大きいですが、館の負担は30%に抑えることができる。仮に自主展で2千万円かけて開催する形もあるが、8千万円の経費がかかる展覧会を、館の負担は2千万円で開催できる。スケジューリングとともに展覧会の運営形態をどういったものにしたかが重要なポイントになる。過度に館に負担がかからないような調整をしているのが実態。結果としてエジプト展は黒字であった。

(委員)

- ・混雑した状況で90分待ちになってしまうと不満も多くなる。時間指定というやり方があるが、当館はいかがか。

(事務局)

- ・当館でも時間指定を検討した。美術館のモネ展は時間指定を導入した。博物館は、時間指定を導入した場合、指定時間前に来た方の待機場所の確保ができるかどうか物理的な条件として大きかった。夏の開催時期であったため、屋外での待機は危険であった。当館の規模では、待機できるスペースの確保が難しく、積極的に導入をしなかった。

議題（2）その他

- ① 特別展「深宇宙展—人類はどこへ向かうのか—」開催実績速報
実績速報を事務局から説明。
- ② 令和8年度の展覧会事業について
事業計画について事務局から説明。
- ③ 令和6年度 豊田市博物館活動 評価のまとめについて
各委員に確認していただくよう説明。

【委員意見】

(委員)

- ・来年度の企画展は、落ち着いて豊田を紹介するものだと感じる。豊田の歴史について「豊田のあゆみ」を読んだところ、豊田は城主がよく変わっている。それぞれの城主のことや城の名前が変わっていること、矢作川の治水との関係によることなど、ポイントになることがたくさんある。豊田に興味を持ってもらうためにも、豊田の歴史全体の流れの中で、紹介してもらえるとよいと思う。

(事務局)

- ・城に関する展示では、委員のご意見を踏まえたものとなる。中世の時代のこの地域は、松平氏がおり、今川氏や武田氏との主戦場のような部分もあったことも説明しつつ、城の防御における発展過程も展示の中で触れていく。また、近世については、寺部城や拳母城の変遷を、城下町の形成に関わる話の中で丁寧に説明していく。

(委員)

- ・深宇宙展は立派な展示であったが、映像が難しいと思った。子どもたちにも、もう少しわかりやすい説明ができたらいい。また、豊田市に関係するものがなかったのがさみしい。
- ・例えば、東海湖についてなど、もっと古い時代も取り上げでほしい。

(事務局)

- ・深宇宙展が難しいという意見は、ほかの方からもお聞きしている。内容が細かい、非常に専門的であり、それを知りたい人には響く展示だったと思う。じっくりとパネルを読まれて、ゆっくり観覧される方が多く、宇宙ファンの方にはよかったが、わかりやすくという部分は、意識するところである。
- ・展覧会を計画する場合、当館が自主的に企画するものと、エジプト展や深宇宙展のように、お話をいただいたタイミングならこの展覧会ができるという機会を捉えて実施するものがある。いただいたお話の中から、豊田市、豊田市博物館で必然性がない展覧会は断って、必要な展覧会を選んでいる。
- ・豊田市を主軸においた展覧会を開催することも非常に意識している。一方で、広く世界を知ること博物館の役割としては大切であり、そこにも取り組んでいく。
- ・館整備においても、大規模な展覧会ができるように対応してきた。今は、開館の立ち上げ期と助走期間から完全に脱却できていない段階であり、期待を持って館に来ていただけるような展覧会を中心に事業を進めている。

(委員)

- ・世界のことを知る展覧会はぜひやってほしい。東海湖の3億年以上前は浅い海であり、大正から昭和に磨き砂が名物となり、それが現在の自動車ガラス製造業につながっている。そういうことかとわかってくる。今、目の前に表れているものが、過去から見るとどうなのか、未来はどうなのか、トータルでどういうふうになって、今がどうかというようなことがわかると嬉しいと思う。

(深谷委員)

- ・「教えて千田先生 とよたの城も、天下の城も」展、楽しみにしている。千田先生の集客力はすごい。文化財課職員が千田先生と太いパイプを持っており、大給城や市場城にも関わってもらっている。豊田市だから企画できる展覧会だと思う。
- ・東海湖については、特別展として開催するにはハードルが高いと思う。ながらく研

究が止まって、進んでいない。全ての資料を博物館で調べて作成することになりそう。みんなで作る博物館のコンセプトのもとで、我々も一緒にできると思うが、全体の構成をどういう方向に持って行くかということに、エビデンスが足りていないと思う。

(委員)

- ・そこでまで専門的でなくても、47災害ではサバ土だったから土砂崩れが起こったなど、ある事象が過去にこうだったのかとつながると興味を持てると思う。

(委員)

- ・豊田の地質と暮らしを掘り下げて、地下資源の視点、自然科学的なもの、防災的なものなどで枠組みを組めば、ある程度の規模での開催ができるのではないか。

(委員)

- ・東海湖について、博物館として研究してほしい。

(委員)

- ・郷土資料館は歴史主体だが、博物館では自然も大きく扱っている。機能の違いは？

(事務局)

- ・博物館で展示を通じ、観覧する人に豊田市について知ってもらおうと働きかける場合、これは歴史の展示、これは自然の展示ということは示していない。歴史も自然も、人という存在を抜きにして語れない。歴史学のどの時代を通じても、自然との関わりがあることは共通している。釘宮委員からご意見あったように、現代の暮らしから立ち返ったとき、私たちという存在と結合して、歴史も自然も存在している。ここに配慮しながら取り組むのが、現在の歴史や自然の語り方。
- ・常設展では、47災害や豊田の地質も随時取り上げている。展覧会で取り上げているテーマと、常設展を緩やかに連動させることで、常設展の見え方が変わっていくように、今年度は取り組んだ。深宇宙展のタイミングから、国境標石。天体をみることで正しい位置を測ることができる。その話題が、伊能忠敬展につながっていく。このように、自然分野と歴史分野を横断し扱っていくことが、総合博物館としてはふさわしいと思う。
- ・実は測量事業の隊長をやっていた大島健一は、豊田市に深い関りがある歴史上の人物だが、豊田市の歴史の本では全く評価されていないことも今回初めて知った。今後の当館の展覧会のネタとして、いろんなテーマを集めながら調査研究も取り組んでいきたい

(委員)

- ・令和8年度は開館して3年目。3年の間であれば、失敗しても免除されると思うので、いろんなことを試してやっていただきたい。4年になってくると評価が厳しくなってくるだろう。
- ・展示スペースが狭いのではないかという声を聞く。たくさん資料や作品を並べたいということがあるとは思いますが、混雑すると本当に狭いということをお伝えしておく。

(事務局)

- ・巡回展の展示物は、当館よりも大きい規模の館でやったものを持ってくるため、実際多い。前の会場にあったものがないとかではなく、逆に増えるものもある状況。

たくさんものを見てもらいたいと思いつつ、課題として考えていかないといけない。

(委員)

- ・1月3日、4日に開館したというのは、試しにやってみたということだが、びっくりした。多くの館が閉館している中で、豊田市博物館は開館していて、実際にすごく混雑していた。自分も博物館で勤務しているので運営側の立場としては、人的に負担になっていなかったか、大丈夫だったかと心配になる。来年からも続けるのか。

(事務局)

- ・豊田市内は、施設は1月5日から開館する。3日に開館した効果は、提案者の館長の狙い通りだった。豊田市民の方、おそらく帰省している家族と共に、3世代での来館などが見られた。実施してよかったと思うが、正月開館時に常設展しかやっていない場合は、効果は弱いと思う。職員への負担も考慮されるので、今後は、戦略として開館が効果的という時を狙っていくのが得策である。

(委員)

- ・美術館では不登校児童生徒を招待する試みをしたと聞いた。博物館に行くと言っていると落ち着くという話を聞いたが、博物館ではそういったことをやるのか。

(事務局)

- ・博物館学習の小中学校の児童・生徒が来校する中で、不登校の児童・生徒を対象としたフリースクールも受け入れている。また、心の健康上の理由で休職される方の復職プログラムを行っている民間の事業所と連携して、そういった方の受け入れも今年度から始めた。
- ・来てくれた方たちは楽しそうに働いていらしかった。博物館で仕事をするという珍しさもあり、民具の掃除などをしていただいた。どんな時でも受け入れができるものではないが、事業所の方からはもっと受け入れてほしいと言われている。

(委員)

- ・弊社では、市内の小中学校の15%くらいの子どもたちが来ている。一番盛り上がったのは、フリースクールの子どもたち。彼らは、質問するときは一切の遠慮がない。こちらが説明していても、疑問に思った瞬間に聞いてくれる。ものすごく盛り上がった。誰かが質問を始めると、他の子も質問する空気になる。せっかくの機会なので、どんどん質問してほしい。一般の子どもたちは、質問が出てこないこともあるが、探求学習としてとても意味がある。
- ・何年後か、このとき何を見て、何の話を聞いたかということは多分覚えていないだろう。でも、誰と見たか、楽しかったということは残ると思う。何を見たかも大事だが、博物館で楽しかったという記憶を持って大人になってほしい。そうすると、また博物館に来てくれる。博物館にマナーはあるけれど、子どもたちには好きに、自由に見てもらいたい。友だちと意見交換しながらみってくれるとよいと思う。

(委員)

- ・わくわくワールドというイベントに、トコ積み木の体験コーナーを出していて、みんな自由に遊ばせる。子どもが400人来る。何も束縛しないと、とても自由に遊

んでいて面白いことになっている。

(委員)

- ・この4月から豊田西高等学校に付属中学校ができる。70名の定員で50名とのこと。夜間中学もできる。10名くらいの応募があり、60代、70代の方もみえて、外国籍の方が結構いる。それも視野に入れて博物館学習を進めてほしい。

(事務局)

- ・豊田西高等学校の先生が早い段階で博物館学習の担当教員に相談していただいている。現在の博物館学習のプログラムをそのまま同じように受けってもらうことは難しいと思う。どういった対応ができるか検討し、博物館でできることをやっていきたい。

以上で、本日の議事をすべて終了する。